

会 報 《第415号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和2年5月1日

《目 次》

- I 寄 稿 『思い出のイギリス紀行』 ……2～4頁
兵庫県新装サッシ(株) 顧問 河野 潤也氏 (当会理事)
- II 寄 稿 『兵庫県はこんな部門でも先駆者です。駅弁編』 ……4～6頁
岡工務店(株) 取締役副社長 岡 澄彦氏 (当会理事)
- III 花だより バ ラ(伊丹・荒牧バラ公園、須磨離宮公園、播磨中央公園) ……6頁
- IV 追 悼 (1) 『坂本勝比古先生を偲んで』 ……7頁
(一社)兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳
(2) 『兵庫県建築会創立 70 周年を迎えて』 ……7～8頁
故 坂本 勝比古氏(特別会員・神戸芸術工科大学名誉教授)
(3) 『坂本勝比古先生を悼む』 ……8～9頁
京都工芸繊維大学 名誉教授 石田 潤一郎氏
- V お知らせ 行事案内、事務局だより ……10～12 頁
広報コーナー(総合資格学院、住宅再建共済制度)



北野天満神社から風見鶏の館 (旧トーマス住宅)、神戸市街地を望む
(神戸市中央区北野町)

《神戸の町と建築》(坂本勝比古氏著・昭和51年)

『建築はむかしから町の顔であるといわれ、その町を訪れて一番印象に残るのはそれぞれの町のスカイラインを構成している建築物の立ち姿である。何故ならば、建築はその町の歴史を刻んでいるからである。』
～略～

神戸の町は、都市としての性格からみるならば、むしろ新しい町というべきであろう。開港当時、外国人居留地を中心にもたらされた”異人館”と汎称されるような洋風建築は、我が国におけるこの種の建築の先端を切るものであったし、明治、大正、昭和前期を通じて、神戸の都市像を形成してきたものは、この国の近代建築のなかでもユニークな存在であった。』

これは、本年2月にご逝去された特別会員の故坂本比古氏が寄稿された建築会30周年記念誌より抜粋要約したものです。坂本氏は異人館の研究と保存に情熱を傾けてこられました。その遺徳を偲び追悼の寄稿、遺稿を掲載しました。

I 会員寄稿 『思い出のイギリス紀行』

兵庫新装サッシ (株)

顧問 河野 潤也氏 (当会理事)

2005年3月24日かねてより、ロンドン転勤中の友人より赴任期間が間もなく終わるので今のうちに来ないかとの誘い、こんな機会を逃してはと、いざロンドンへ。5泊7日の旅の始まりである。

1日目

関西国際空港からロンドンへ向けて出発、成田経由で約13時間の道のり。

ロンドンヒースロー空港に到着。現地時間午後3時、友人の出迎えを受ける。まずは再会を祝してビールで乾杯！時差ボケで眠気が襲ってくる。今晩は友人宅に泊めていただく。途中、お化けの城ハンプトンコート（ヘンリー8世の城）に案内されるもお化けには挨拶できず。

ハンプトンコート



友人宅



ウインブルドンテニスコートを横目にロンドン郊外ケンブリッジアベニューにある3LDKガレージ付の友人宅。裏にはテニスコート一面分の庭付き高級住宅。2戸一ではあるが、聞くとところによると1軒2億円！ロンドンの物価の高さは半端ない。

2日目

今回の旅は、何の目的も無く、全て友人任せである。よって今日からの予定は知る由もなく、ただただ友人についていくだけである。聞けば、車でリヴァプールまで2泊3日の小旅行。夫婦2組と犬1匹の旅の始まり。

まず、ユネスコ世界遺産の世界で最も古い鉄橋「アイアンブリッジ」を見学。

アイアンブリッジ



ほど近くのB&Bにて途中泊。宿近くのPUBで夕食。宿に帰ってみると、宿主が時計を夏時間に調整。いやはや面倒くさい地域である。全部の時計を1時間早めるのだそうだ。

3日目

リヴァプールへ向けて出発。車で3時間の長旅である。景色はというと、牧草地が延々と続くのである。途中マンチェスターの工業地帯を抜けて、いよいよリヴァプールへ。

リヴァプールで待っていてくれたのは友人が手配してくれた運転手付き観光案内人である。普段は保険会社のサラリーマン。アルバイトで観光案内人をやっているそうだ。

ご存じビートルズの軌跡を巡る旅の始まりである。北西部の港町リヴァプールでメンバーは生まれ育った。

ジョン・レノンは複雑な少年時代を過ごし、母ジュリアは交通事故で亡くなり、姉夫妻に育てられる。他のメンバーに比べると少しだけ階級が高い家に育ったらしい。16歳の時にバンド「クオリーメン」を結成。セント・ピーターズ教会でポール・マッカートニーに出会う。

ポールの家は引っ越しを重ね、かなりワーキングクラスな感じの家で父親はジャズミュージシャンであった。お互い早くに母親を亡くし、友情が強まった。

次にジョージ・ハリスンがバンドに加わる。ジョージは4人兄弟の末っ子で、家は2階建ての4部屋に家族6人で住み、裏庭で小さなバスタブにお湯をはって体を洗っていたらしい。

リングスターの生家。今も住居として、老婦人が住んでいる。観光名所なのか家の中を見せてもらえるのである。リング・スターは貧しい地区で生まれ、3歳の時に両親が離婚、母親に育てられる。

リング・スターの家



ジョン・レノンの家



ポール・マッカートニーの家



ジョージ・ハリスンの家

ジョンとポールがバスに乗るため待ち合わせをしていた通り「ペニー・レーン」、ラウンドアバウト・床屋・消防署・フィッシュ&チップス店を今でも見ることができる。ワクワクが止まらない。

エリナー・リグビー。老女エリナーとマッケンジー神父という架空の人物を悲劇的に書いた物語調の曲。ウールトン共同墓地に墓が実在するが、歌詞とは関係が無い。

ストベリー・フィールズ、孤児院があるが今は使われていない。



ペニー・レーンのバス停

エリナー・リグビーの墓



1960年8月に「ビートルズ」に改名。

beetle(カブトムシ)と音楽の beat をかけたものだった。当初のドラム、ピートの代役でリング・スターが使われていたが後に正式に加入する。

バンドはじわじわと人気が高まりブレイクするのも時間の問題だった。

1961年11月「キャヴァーン・クラブ」に出演。

1962年6月、ついにレコード契約を果たした。

デビュー曲「ラブ・ミー・ドウ」を発表。押しも押されぬバンドになり、音楽とともにリヴァプールから世界へと羽ばたいていった。

キャヴァーン・クラブ



貧しい生い立ちから有名になった話はそう珍しくもないが、当人たちが生まれ育った街を回っていると、その時代にタイムスリップしたかのような気がする。

目の前を若い4人歩いてくる様子が目に浮かんでくる。と同時に学生時代にやはりバンドを組んでいた頃の我々と重ね合わせ、彼らと同じくバンドに情熱を燃やし、音楽談義に花を咲かせ青春を謳歌していた自分が蘇る。心地いい時間が過ぎ去っていく。それしてもビートルズはやはりリヴァプールが似合っている。

今回のメインであるビートルズの軌跡巡りも終盤に近付き、案内人とも別れを告げ、今夜の宿へ。

4日目

帰りはコッツウォルズからロンドンへ。

リヴァプールやロンドンとは違い。のんびりとした田園風景に癒される。野生のクジャクも出現。



小旅行を終え、我が家（友人宅）へ帰宅
運転ご苦労様。感謝！

5日目

朝、近くのゴルフ場横を犬の散歩にお付き合い。その後、裏庭でコーヒブレイク。いやはや、なんとも優雅でほのぼのとした時間を過ごす。

さて、今日はロンドン市内を観光予定。夕方からミュージカル「シカゴ」を観劇の予定だそう。友人はというと、赤と白のストライプのジャケット（まず日本では着れない）におめかし？

まずはこれも外せないアビーロードスタジオへ。今は禁止となっているアビーロードの横断歩道を渡る。背広の語源となっているセビルロードへ。ビッグベンを横目に国会議事堂、などを車で観光。

アビーロード

セビルロード



テムズ川沿いの PUB。フィッシュ&チップスとワインで遅めの昼食。

日本でミュージカルなど無縁のものであったが宝塚ファンの友人の奥様のたつての希望で初めてのミュージカル観劇。全編英語、字幕なし。

途中休憩があり、ロビーで予約してくれていた

シャンパンで乾杯。ちょっとブルジョア気分。
遅くなってしまったがチャイナタウンで夕食。



世話になった友人と、また日本での再会を約束して、ロンドン市内のホテルへ送ってもらう。

6 日目

今回、唯一自力での観光。

電車の 1 日乗車券を買って市内観光へ。

大英博物館。なんと見学無料。しかも広い。

しかしゆっくり見る間もなく買い物へ。高級店が立ち並ぶ街中。新旧の建物が区別して立ち並び、古い建物には歴史を感じさせる重厚感がある。2 階建てバスやロンドンタクシーが行きかう光景はまるで映画の世界へ入ったようである。



ホテルに荷物を取りに帰り、空港へ。

何と友人の奥さんが空港まで車で送ってくれるとのこと。ありがたや。奥さんに礼を言って空港内へ、すると、交代で旦那が見送りに、とはいってもここで働いているので仕事を抜け出して見送りにわざわざ来てくれた。最後もビールで乾杯し、帰国の途へ。

今回のイギリス旅行は。歴史ある大英帝国の旅とは違うかもしれないけれど、私にとっては趣味嗜好に満ちた思い出深いものとなった。それもこれも世話になりっぱなしの友人のおかげである。持つべきものは良き友である。感謝！

II 会員寄稿

『兵庫県はこんな部門でも先駆者 《駅弁編》』 岡工務店（株）取締役副社長 岡 澄彦氏（当会理事）

この寄稿文は令和 2 年 1 月に寄せられたもので、編集の都合でこの時期になりました。岡さんからは“非常事態宣言下の現在、ご自宅で旅情への思いを馳せて頂ければ幸いです。1 日も早い日常の復帰を願うばかりです。”とのお気遣いの言葉をいただきました。

皆さんの中で一度も駅弁を召し上がったことがないという方はおられないだろう。では、なぜ駅弁というのかご存じだろうか。

駅の構内で売っているから駅弁。確かにそうである。が、最も大事なものは日本鉄道構内営業中央会に調製元が加入しているかどうか。である。駅弁の掛け紙に注目されたい。駅弁であれば日の丸の駅弁マークが記載されている。これが本物の証というわけである。駅売りから退いた元駅弁屋（京都駅の老舗「萩乃家」がこれに該当）。逆に中央会に加入していないが JR に納入している調整元。隣接の空港・バスターミナル構内で販売している弁当類（いわゆる空弁）。についても駅弁の類とみなされる。



国鉄時代から京都駅弁として長年親しまれてきた「萩乃家」も駅構内では入手不可能となった。

兵庫県には、ふたつの駅弁調製元が存在する。神戸市にある「淡路屋」。姫路市にある「まねき食品」である。駅弁の調整元が最盛期（昭和 30 年代）に全国で 400 を数えたが、令和 2 年現在では 100 切るにまで減っている環境を思えば潤沢なことである。

そもそも駅弁の始祖は、諸説あるが明治 18 年の宇都宮駅で発売された白木屋旅館のにぎり飯 2 個入りと言われる。質素に見えるが白米を食べられることが中産階級の証であった時代。売価 5 銭と、現在の物価で 700 円ほどに相当する。その 3 か月後に信越本線 横川駅（当時は鉄道から馬車への乗換駅であった）で、翌年には高崎駅で駅弁の発売が記録されている。横川駅にせよ高崎駅にせよ

当地の名物駅弁を今なおロングセラーとして販売しているが、当時は非常食的なにぎり飯で、これが明治における新製品だったと見える。

明治 21 年には東海道本線国府駅にも駅弁が登場するが、内容の進歩は見られない中、明治 22 年に山陽本線の姫路駅までの開通を受けて全国で初めて駅弁らしい駅弁が登場する。内容も鯛、蒲鉾、玉子焼き、高野豆腐、きんとん・・・といった当時の料理屋料理が経木の箱にぎっしり詰まったものであった。これが姫路駅弁「まねき食品」のルーツである。

一方、「ひっぱりだこ飯」で現在おなじみの淡路屋は、駅弁が国鉄の列車スピードアップに合わせて地域色を競い合うようになる昭和 49 年に「しゃぶしゃぶ弁当松風」（東京～神戸開業 100 周年記念）で全国初の 1,000 円弁当を発売した調製元である。令和 2 年現在で、人件費を考えると駅弁 1,000 円は珍しくもないが、特殊弁当の上限 500 円の時代に別格の存在であった。

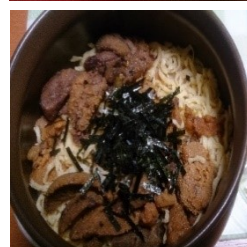
戦後の混乱を経て、社会全体が落ち着きを取り戻した頃が、旅行ブームの追い風も受け、わが国の駅弁の全盛期であった。昭和 29 年横浜駅「シウマイ弁当」（崎陽軒・現在 860 円）、昭和 31 年横川駅「峠の釜飯」（おぎのや・現在 1100 円）など現在もポピュラーな存在の名物駅弁もこの時代に誕生している。

しかし、昭和 50 年の新幹線岡山～博多開業が大きな転機となる。高速化の一方、鈍行列車で旅をしながら駅弁を食べる当たり前の習慣が廃れていくことになった。

また在来線においても、停車時間が短くなり列車の窓も開かない、ホームで立売駅弁を入手することは至難の業となった。加えてモータリゼーションの普及による鉄道離れ、コンビニ弁当の台頭によって平成以降は廃業、駅売りから撤退して縮小する調製元も相次いだ。言い換えれば、移動手段のお供としての駅弁本来の存在意義が変わろうとしていた時期である。

現在の駅弁はその廃絶（駅弁業界の衰退）を食い止めるべく、いくつかの工夫が調製元でされている。ひとつは、特殊弁当への注力。地域の産物や特色を生かした「ふるさとの味の箱」としての駅弁の推進。これが駅弁全盛期から取り組まれていた工夫である。森駅「いかめし」（阿部弁当店・現在 780 円）、一ノ関駅「金色うに飯」（斉藤松月堂・現在 1600 円）、新津駅「えんがわの押し寿司」（神尾弁当店・現在 1100 円）松阪駅「黒毛和牛 牛めし」（新竹商店・1500 円）など。料理屋に上がって食べるのでは時間も値段も気にかかる。コンビニに比べたら駅弁は決して安いものではないが、料理屋で食べればこの値段でとても食べられ

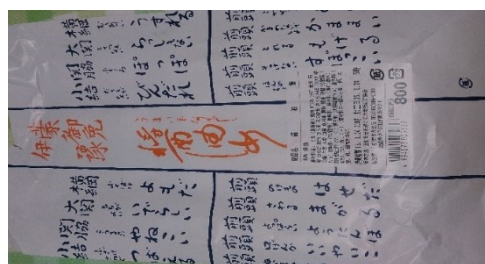
ないのは確かである。



画像左 えんがわ押し寿司 右上 金色うに飯
右下 うに壺（稚内駅・現在 1200 円）

次に経営の効率化。例えば「九尾すし」で知られた黒磯駅の調製元「フタバ食品」は今ではかつての駅弁よりも氷菓・ラクトアイスの製造の方で有名である。また調製元が大きくなった例で、出自として駅弁を主力商品として守っているものの、その実態としては地域の中核食品企業となっている調製元が存在する。千葉駅の「万葉軒」（駅弁はシンプルで割安な特徴を持つ）、高崎駅の「高崎弁当」（たかべん＝だるま弁当で有名）、横浜駅の「崎陽軒」、静岡駅の「東海軒」、敦賀駅の「塩荘」（鯛の押し寿司で古くから知られる）、神戸駅の「淡路屋」、広島駅の「広島駅弁当」など。これらは道の駅や高速道路 SA、デパ地下で駅弁の販路を広げ、地域のコンビニ弁当の製造請負、果ては飲食店の運営、仕出しまで。さらに最近の特徴として、近隣県の廃業した調製元の特殊駅弁を「復刻」という名で継承までしている。

下関駅「ふくめし」（現在 1100 円）を広島駅弁当が、豊岡駅「かに寿司」（現在 1100 円）を淡路屋が継承したような例があるが、小さな調製元が次々廃業となれば、今後も増えるであろうと推測する。



岡山駅の三好野本店で平成 30 年から復刻された松山駅「しょうゆめし」（もと鈴木弁当店）の掛け紙。松山の方言をあしらったパッケージはオリジナル発売当時から変わらない。

次に、販路のシフトである。駅弁全盛期から好評を博していたが、百貨店の駅弁大会など冬季の催事の参加。近年では、上記のみにとどまらず地域のスーパーでの催事に出席されるようになった。

また、東京駅や新大阪駅のように周辺地域の駅弁を取り寄せて販売する駅弁屋も駅構内に登場。ネットが普及したこともあり、季節限定だが自宅にいながらにして通信販売で駅弁が味わえるようになった。もはや、駅弁は旅先・駅のホームで出会うものでなく、売りにきてくれるものへとその在り方を変えた。

近年の催事会場において次のような一面も見られる。現地で作ってはいは調製が間に合わず、または本社工場の製造能力を超えて需要があるようなときに、協力的な仕出し弁当工場や炊飯工場などに依頼などして調製、輸送、実演したりしているという催事屋が少なからず存在しているとみえる。その結果、必ずしも駅弁大会では現地で売られている駅弁と同一の駅弁が提供されているとは限らない場合があるが、それを承知で楽しんでいるようなところはある。

函館本線森駅の「いかめし」はどこの催事会場でもほぼ一番人気の実演商品だが、いかはいかでも、いかさまになる。

あと、顧客のニーズの汲み取りである。冷めてもおいしいのが駅弁の特徴であるが、寒い時に温かいものを求める声に応えるべく加熱式弁当箱が昭和 63 年に淡路屋から「あっちっちすき焼き弁当」（現在 1400 円）が発売されたのを皮切りに、仙台駅「牛たん弁当」（こばやし・現在 1300 円）など各地で同様の加熱式が発売された。ここでも兵庫は先駆者である。ただ、これも上げ底で重いという改善点はあるのだが。

子供受けを狙ったキャラクター駅弁や、町おこしの期待を背負った駅弁も登場するようになって久しい。コラボ駅弁の類だが、かような安直な商法は個人的に好きではない。しかし、駅弁が調製元と共に生きていくすべとして仕方のないことかもしれない。

確かに、駅弁は本来の意味が薄れ、全く違った食文化として進化していくような気さえする。駅弁がその地方の名物となりえたとき、末永く伝統の食文化として残っていくことに期待したいと願わずにいられない。

皆さんが、思い出深い駅弁はどこの駅弁ですか。

（価格表示は全て令和 2 年 1 月末現在です）

小嘶を一つ。「高崎駅のだるま弁当、値段が高くなって手も足も出ません。」

Ⅲ 花だより バラ

外出の自粛要請に加え、肝心の取材先の公園等は閉園という、行楽に心浮き立つこの時期に、なんとも残念至極な状況となっています。どうやら 5 月の連休を通り越す延長の話も出ているようです。止むを得ませんので、過去に掲載したもの等からこの季節の花だよりをお送りします。

岡さんの言葉同様、禁足生活に多少なりとも癒しになれば幸いです。



伊丹・荒牧バラ園（林建設㈱提供） 29 年 5 月



須磨離宮公園
28 年 5 月



播磨中央公園
29 年 5 月



IV 追悼

(1) 神戸芸術工科大学 名誉教授 坂本勝比古先生を偲んで (一社) 兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳

兵庫県建築会の特別会員として、長年にわたりご尽力をいただいていた異人館博士の坂本勝比古先生が、雪消月の2月15日にご逝去されました。93年のご生涯でした。昨年末よりご静養中と伺っていましたが、悲報に接してまさかの思いでした。ごく最近までお元気で、穏やかな笑顔を見せて下さっていたからです。

先生は、中国の青島でお生まれになりました。青島はドイツ人がつくった街ですが、先生の子どもの頃に過ごされた住宅はハーフティンバーと煉瓦の外観が印象的なりっぱな洋館でした。先生が通われた小学校もドイツ風の洋館だったそうです。上海、ソウルと外地での生活を経て、戦後日本に帰ってこられた時、ご覧になった神戸の風景は北野異人館や居留地は残ったものの、多くは焼け野原でした。その後、現在の神戸大学建築学科に入学され、有名な滝沢真弓先生に指導を受けられました。そして神戸市に就職。それから西洋館の評価と保存に、困難な道を切り開かれ使命から使命へ、奮闘の充実したご生涯を送られました。

兵庫県建築会の30周年には「神戸の町と建築」というタイトルで、記念すべきまちづくりの論文をいただいております。また70周年には、励ましの暖かい寄稿文も頂戴いたしました。兵庫県建築会の発展を大いに期待して下さった先生の思いは、建築会に集う皆様の内にずっと生き続けてゆくと思います。長年の先生のご功労に思いを致し、深い感謝の意と共に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

坂本先生による乾杯のご発声（平成29年度総会）



(2) 『兵庫県建築会創立70年を迎えて』

坂本 勝比古氏（特別会員）
神戸芸術工科大学 名誉教授

兵庫県建築会が、昭和22年に設立されてから今年で70周年を迎えられたとのことで、その長年の活動に対して改めて敬意を表したいと思う。

この建築会の定款をみると

- 1) 建築に関する法令の普及
- 2) 建築環境に関する対策
- 3) 建築及び設備技術者の技能の向上
- 4) 建築資材の改善と建築資材について防火、防毒等の防備を図ること

とある。

普段このような事業についてそれ程関心をもっていないが、いずれも大切な項目であり、それは日々の努力によって報われるものであるといえよう。

筆者がこの会を通して感じとってきたことは、この会を構成してきた会員諸兄との交流についての思い出である。

また、この会員諸兄の努力や親交があつてこそ、会の目的が生かされて発展してきたものであるとも云えるであろう。

小生がこの会を通して交流した建築家の方々のなかで、思い出深い存在は、兵庫県営繕課に所属されていた先輩諸兄であった。

そのひとりに、県の営繕課長を勤めておられた光安義光氏の存在である。

光安氏は当時兵庫県本庁舎の設計監理を営繕課に所属された技術職員の手によって落成させた有能な建築家であった。

光安氏は温厚な人柄ながら、有言実行型の努力家であり、芸術的センスに富み、多くの若き技術者を育てるうえで功績があった。

筆者は、当時神戸市の建築部営繕に所属しており、その頃は官庁営繕のスタンスとして、自ら計画、設計、監理を行うことは慣例であった。

そのようななかで、筆者らは県営繕の技術職員として、三川栄吉、信川好弘、山田勝成氏らと親交を深めることができた。

彼らはいずれも、光安氏の輩下にあつた建築家たちで、このような交流の背景として兵庫県建築会の存在があつたと思う。

筆者は以前この兵庫県建築会30年史の刊行に際し小論を公開したことがあつた。

この度、谷局長より、バックナンバーを調べて頂き、送られてきたのが拙稿による。“神戸の町

と“建築”と題した小論であった。

当時小生は神戸市の教育委員会に在籍して、異人館や近代建築の保存に取り組んでいた。

その冒頭に記した言葉は、“建築はむかしからまちの顔であるといわれている。日本でも諸外国でもその町を訪れて一番印象に残るのは、それぞれのまちのスカイラインを形成している建築物の建ち姿である。云々”と述べた。

神戸の場合は、そもそも近代におけるこの町の発展は、国際的貿易港として知られ、多くの異邦人達が住んだ港町に端を発したことを顧みるとき、異人館の存在は欠かせないものであり、その文化的遺産としての存在意義は、多くの市民の共感を得て文化庁の選定を受け昭和55年（1980）重要伝統的建造物群保存地区として北野町山本通境界が保存地域の指定を受けたことは喜ばしい出来事であった。

なお、大切なことは日々会の運営に努力を払っておられる事務方の存在も大切であろう。

事務方の縁の下の尽力に対しても深い敬意を表したい。

これからも“兵庫県建築会”の益々の発展を期待して止まないところである。

《70周年記念誌より坂本先生の寄稿文を転載しました》



70周年記念式典（29.01）



29年度総会（29.05）・坂戸省三氏（明石工業高等専門学校名誉教授）と歓談

（3）特別寄稿『坂本勝比古先生を悼む』

石田 潤一郎氏

京都工芸繊維大学名誉教授

武庫川女子大学客員教授

近代建築史研究の先達、坂本勝比古先生が2月15日に亡くなられた。93歳であった。先生とはそうひんぴんとお目にかかっていたわけではないが、それでもいくつもの思い出がある。中でも初対面の時に叱られた記憶は、その苦さとともに忘れがたい。

たしか1978年（昭和53）の建築学会大会が神奈川県平塚市の東海大学で開かれたときのことだ。私は大学院の博士課程に進学したばかりで、上級生だった宮本雅明さんと連れだって旅行していた。どういういきさつでか、坂本勝比古先生とビジネスホテルで三人同宿することになった。宿でどんなやりとりがあったのか定かには覚えていないが、坂本先生は、皆さんの新しい近代建築史研究に期待しているといったことをおっしゃったと思う。それに対して私は「いやあ、僕はサボりだから」と口走った。すると坂本先生はそれまでのにこやかな表情を急に改められ、まさに真顔になって「若い人がそんなことを言っちゃあいけません」と戒めた。

私は慌てて謝ったのだが、内心、殊勝なことを口にするのが照れくさかったただけなんだけども言い訳したい気分も残った。だが、あとになって坂本先生の研究者としての歩みを知って、あんな甘えた態度を取ってはいけなかったのだ、と思いつくことになる。

坂本先生は1949年（昭和24）に神戸高等工業学校を卒業され、神戸市復興局（のち建築局）の技師となった。学校を中心に多くの公共建築の設計監理に携わったと聞く。しかし、先生は神戸北野町境界の「異人館」に興味を持ち、職務のかたわら、その調査研究を進めていった。



シュウエケ邸（写真提供：兵庫県）

先生の異人館研究の凄みは、一つにはハンセル、デ・ラランデといった設計者の事績を、遺族にまで面会して明確にしたことである。もう一つは、学位論文の題が「開港場居留地建築の研究」であることに示されているように、歴史的・都市的背景に立ち返って異人館成立の過程を解明していることである。先生のこの両面からの研究によって、それぞれの異人館は、誰が何のために建て、誰が設計したのか、その経歴をはっきり知ることができ、その価値を確かめることができるようになったのだ。

だが、こうした日本全国に及ぶ調査を、一技術官吏が遂行しようとするならば、非常に困難に直面することになる。坂本先生は週末の休日を長崎や函館など遠隔地の現地調査にあて、その成果を週明けの通勤バスの中で原稿化するという生活を続けた。さらには神戸市に文化財保護課が設置されると、職階が下がることを承知で転属した。先生の初期の業績はそうした刻苦の賜物なのである。研究に専念できる環境にある学生がふやけたことを言っていると叱りたくなるのも当然だった。

だが、強調しておきたいのは、先生の研究は、禁欲の産物といった痩せた印象を与えなかったし、まして業績づくりの臭みを毫も感じさせなかったことである。自身の関心と好奇心に従って知見を深めた結果が論文になり、著作となっているという落ち着きを常に漂わせるものだった。



旧トーマス邸（写真提供：兵庫県）

そうした先生の研究の美点を特によく感じさせるのは『近代日本建築学発達史』に収められた「関西の建築家の職能」、山口半六、設楽貞雄ら関西建築界草創期の建築家と住友宮繕とを論じた『商都のデザイン』、そして編纂のリーダーを務めた『日本建築協会 80 年史』といった一連の建築家研究である。

そこでは、調査の緻密さと目配りの広さとが両立していることに驚かされる。一例を挙げれば、『商都のデザイン』で設楽貞雄について述べるとき、設楽本人だけでなく、所員一人一人の経歴をも細かくたどっていく。その一方で設楽の在籍し

た山陽鉄道が車中でビフテキを供したといったエピソードをさりげなく書き添えるのだ。建築家本人や家族への聞き取りから得た知見の蓄積は先生の独壇場であった。松井貴太郎の生家が堆朱職であったことなど、先生が書き留めていなかったら誰も知ることはなかったろう。先生の著作では、茂庄五郎から村野藤吾に至るまで、数多くの建築家の事績を個人的な思い入れを排しつつ、それぞれの成し遂げたことに歴史的な位置付けを与えている。それが可能であったのは、先生の知識の深さと私心のない研究態度のゆえであった。

坂本先生は、1990 年代に入ると郊外住宅地研究に手を染める。阪神間や東大阪市小阪に見られる良好な住環境形成の過程に光を当てた。そこにも建築家研究と同様のまなざしがある。開発者、居住者、建築家、それぞれの貢献を正確に評価しようとする姿勢である。

坂本先生が、そもそも異人館に関心を懷いた原点は、子供のころに過ごした中国・チンタオの洋館の記憶だと伺った。いみじくも著書『西洋館』の序説で、先生は、「いまでは洋風とか和風とか区別することが困難なほど欧米の生活様式、技術が建築物にとりいれられ、同化が進んでしまっている。このことこそ、明治に生きた多くの先人たちが指向した目標であった」と述べる。先生は、この「先人の目標」に自らの記憶を重ね合わせて共感されたのであろう。そしてその目標達成の過程を描き出そうとされたのだ。

先生は世俗的な名利を求めず、権威をひけらかすこともしなかった。極東の島国に到達した西洋建築文化の成果とそこで格闘した人々の営為を解き明かし、その価値を闡明することにひたすら心を砕いた。先生の業績がこれからも絶えず参照されるのと同様に、先生の研究者としての生き方も後進にとって師表となるであろう。あらためてそのご温容が思い出されてならないのである。



小林家住宅（写真提供：兵庫県）

V お知らせ

◎正会員の異動：(4月届け出分 順不同 敬称略)

(株)東光商会 代表取締役会長 志水 利達

→ 会長 志水 利達

日本住宅パネル工業(協)大阪支所神戸営業所

所長 本村 隆治 → 新 宗末 徹也

(公財)兵庫県住宅建築総合センター

業務執行理事 山口 一郎 → 新 藪本 和法

(一社)兵庫県産業資源循環協会

常務理事兼事務局長 勝野 聡一郎

→ 新 田元 保雄(総会まで事務局長)

(株)西日本住宅評価センター 神戸支店

支店長 国宗 充 → 新 澤田 範夫

◎特別会員の異動：令和2年4月1日付け

(4月号以降の届出分 順不同 敬称略)

《西宮市異動》

都市局建築指導課長 佐藤亘一郎 → 都市デザ

イン課長へ ← 山岡 道則(同課建築指導

チーム係長より)

《宝塚市異動》

都市整備部 部長 増田 充弘 → 退職

← 尾崎 和之(都市安全部長より)

◎令和2年度第1回理事会

4月23日開催予定の当該理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定款第35条に基づく決議の省略手続により議決を得ました。

この結果、令和元年度事業報告、同決算、令和2年度役員選任案、正会員の承認、参与の承認について成立しました。その承認については定時総会で報告します。

◎行事案内

1 令和2年度定時総会

日 時：令和2年5月19日(火)

14:00~15:00

場 所：兵庫県建設会館

2 第484回月例会

日 時：令和2年6月11日(木)

12:00~14:00

場 所：神戸三宮東急REIホテル

テーマ：健康マイプラン

『災害時の食はどうあるべきか』

講 師：奥田和子氏(甲南女子大学名誉教授)

3 研修交流会

日 時：令和2年6月25日(木)

9:03 スタート

場 所：城山ゴルフ倶楽部

なお、これら行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みて、中止、延期等が想定されます。変更等のお知らせは郵便、メール等でご案内しますのでご了承ください。

◎花だより②：ヤマツツジ

西神ニュータウンへの最後の通勤でようやく撮影できたのがこのヤマツツジ。小部明石線の本見

交差点の直ぐ南側にある喫茶店の敷地で、時間が早いとまだ駐車場が開いてなく機会がなかった。

桜に少し遅れて里山の斜面をピンク一色に覆いつくす様は見事である。



◎事務局だより

○よろしくお願いします

このたび4月1日付けで谷さんの後任として事務局長に着任しました吉本と申します。なにかとご迷惑をかけるかもしれませんが、ご指導のほどよろしくお願いします。

さて、令和2年度がスタートして最初の会報となりますが、昨今の新型コロナウイルス感染症対応の影響で、大変な時期を迎えています。例年ですと5月になると、衣替えの季節となり、いわゆるエコスタイルも始まります。

日本では古来から、神様もこの時期更衣すると信じて神事が行われてきました。伊勢神宮の神御衣祭^{かんみそさい}ほか、京都貴船神社、福岡太宰府天満宮など多くの神社で同様の祭が行われています。

特に伊勢神宮の神御衣祭は天照大御神に絹と麻の反物を、御糸、御針などの御料を共にお供えするものです。お供え物は唐櫃2台に納め、14日の朝、皇大神宮に運び、神前に供えられます。衣替えの時期である5月と10月の14日に行われるものですが、天照大御神だけを対象とするお祭りとして、大変大事なものとされています。

このような日本独自の風習があたりまえのように行われる日常が早く戻ってきて欲しいと願って止みません。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止

兵庫県では、国の緊急事態宣言に基づき新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「県民の皆さんへのお願い」「休業等の要請」「各種情報の開示」などを行っています。会員の皆さんの生活や活動に参考になることも多いかと思えます。

つきましては、「兵庫県緊急用トップページ」のリンクを示しますので、ご活用ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/index.html>

事務局	：	吉本義幸、石井滝実子
電話	：	078-996-2851
FAX	：	078-996-2852
Email	：	archit-k@axel.ocn.ne.jp

広報コーナー：総合資格学院



1級・2級 建 築 士

願書代
0円

願 書

取り寄せ サービス

毎年ご好評をいただいている、**無料の願書取り寄せサービス**。ご友人の分や、会社の分のお取りまとめ等も承ります。当学院が願書をお渡しするので、**入手し忘れ心配無用**。

無料 **講座説明会・体験学習会** 開催中!

実績が証明した当学院講座の品質をぜひ体験してください

1級・2級 建築士	構造設計/設備設計 1級建築士	建築設備士
1級・2級 管工事施工管理技士	1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士
宅地建物取引士	賃貸不動産経営管理士	インテリアコーディネーター

お申込みご相談はお電話、またはメールにて!!

神戸校 神戸市中央区雲井通4-2-2 マークラ神戸ビル 3F

tel **078-241-1711**

mail **kohbe@shikaku.co.jp**

QRコードでメールアドレス簡単入力

総合資格学院

スクールサイト <http://www.shikaku.co.jp> 総合資格 検索

【法定講習】一級・二級・木造建築士定期講習/監理技術者講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習

おかげさまで「1級建築士も2級建築士も合格実績日本一」を達成しました。これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長 **岸 隆司**

ホームページ <http://www.sogoshikaku.co.jp> Facebook 総合資格学院で検索!

この詳細は次のホームページをご覧ください。

<https://www.shikaku.co.jp/>

広報コーナー：住宅再建共済制度

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

安心をカタチに 兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%！
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟！

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
 住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に

住宅再建共済

年額5,000円で
 再建、補修時等に

最大600万円 給付！

※半壊（損害割合 20%）以上

一部損壊特約

年額500円で
 補修時等に

25万円 給付！

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額1,500円で
 住宅とセット加入の場合 年額1,000円で

購入・修復時に **最大50万円 給付！**

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
 FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikin@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 加入申込書はダウンロードできます



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！